

## 平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

### 1. 学校概要

学校名 札幌山の手高等学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  中高一貫教育  高等学校  
 教員養成  技術/職業教育  
 特別支援学校  その他 ( )

所在地 〒063 - 0002  
札幌市西区山の手2条8丁目-12

E-mail n.ymesksd.102@gmail.com

Website kokusai@yamanote.ed.jp

児童生徒数 男子 11 名 女子 8 名 合計 19 名  
 児童・生徒の年齢 15 歳～ 18 歳

### 2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( )

### 3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

活動日	活動名	場所	参加人数	活動内容・活動の様子・感想など
H27 5/9(土)	第90回 足なが 学生募金	三越前	5名	どこの学校にも負けないくらい大きな声で呼びかけ、たくさんの募金を頂いた。
5/11(月) ～22(金)	ネパール大地震 募金	校内	全校生徒	ホームルームごとに10日間募金を呼びかけた。
5/25(月)	地域清掃(1学年)	山の手 地区	309名	総合学習の一環として環境衛生部が主体となって、山の手・琴似地区の地域清掃を行った。
5/17(日)	大通公園植栽	大通公園1丁目、5丁目	5名	ロータリアンと共に大通公園花壇の植栽を行った。テレビ塔のレストランでごちそうになったランチは最高で、素晴らしい眺めに自分達の植えた花がマッチしていて綺麗だった。
6/20(土)、 6/21(日)	2014～2015年度 インターアクト 年次大会	N T T 研修センター	15名	部員全員が最もたのしみに行っている活動。今回は静内高校が当番校。他校との交流に加えて、乗馬体験の時間も設けてくれて、楽しく2日間となった。
5/25(月)	地域清掃(2学年)	山の手 地区	328名	総合学習の一環として環境衛生部が主体となって、山の手・琴似地区の地域清掃を行った。
6/28(日)	東日本応援フリー マーケット	ちえり あ	12名	第3回目の開催。前回の反省を活かしたとのことで、引き続き大盛況だったが混乱は少なかった。178,543円(昨年167,116円)の収益があった。
7/5(日)	札幌育成園夏の 展示即売会	札幌育 成園	11名	屋台の売り子や焼き肉用の炭火を起こすグループに分かれて一生懸命働いていた。施設を利用している方々も家族とみんな笑顔でこのお祭りを楽しんでいて、温かい雰囲気だった。
7/13(月)	山の手地区 早 朝一斉街頭啓発 (夏季)	北洋銀行山の 手出張 所付近	20名	旗を手に、そしてタスキを肩に掛け、市民や西警と共に交通安全について啓発した。本校生徒も街頭アナウンスを経験させていただいた。緊張したが、とても楽しかった。
7/17(金)、 18(土)	学校祭 展示活 動報告、縁日、献 血啓発	本校	15名	今年は縁日にてポップコーン初挑戦。近隣の保育園児を招待して縁日を楽しんでもらった。献血車を呼び掛け、生徒、教職員、来校者に協力(計:122名)させていただいた。
7/25(土)	介護老人保健施 設 エルクオー ル 夏祭りボラ	介護老 人保健 施設	9名	昨年も私たちが参加していたことを覚えていて下さった高齢者が何名かいて話しかけてくれた。雨天のため、

	ンティア	エルク オール		外の屋台が規模を小さくして室内で行ったのが残念だった。
7/31(金)	西区子育て支援 さんかくやまべ え	西区役 所 内 子育て 支援セ ンター	12名	子ども達から追いかけて回されるほど、人気者になった部員もいた。とても充実した楽しい活動を行うことができた。
8/4(火)、 8/5(水)	みんなであそん じゃOh!	西区子 育て支 援セン ター ちあふ る・に し	10~12名	水遊びや人形劇のお手伝いをして、参加した親子との交流を深めた。夏の暑さのせいも、子どもたちの体力に圧倒されたがとても楽しかった。
8/6(木)~ 8(土)	JRC トレー ニングセンター	札幌留 学交流 センタ ー (豊 平)	8名	小中高が入り交ざったグループをいくつか作り、グループ内討議や発表、チーム対抗のゲームなどを楽しんだ。普段は発言が少ない生徒もグループ内では年長者なので、リーダー的存在となって引っ張っていた。
8/31(日)	2015 北海道マラ ソン給水ボラン ティア	北7条 西7丁 目付 近	52名	炎天下で大きな声をだして、選手へエールを送った。夢中になりすぎて、自分の水分補給をおろそかにしてしまった生徒も…。「また来年もやりたい!」との声も多く聞かれていた。
9/5(土)	キッズカーニ バル	二十四 軒小学 校	8名	地域のボランティアさんと共にコーナーを担当し、幼児から小学生と共に遊んだ。
9/6(日)	第37回 クリー ンアップ石狩新 港浜	石狩新 港浜	131名	海と海辺をきれいにする会員と共に活動した。雨上がり後の砂浜に足がぬかるんだが、小さなゴミから大きく重たいゴミまで一生懸命拾ってキレイにした。お願いだからマナーを守って遊んで下さい。そう強く願っていた。
9/7(月)	地域清掃(3学年)	山の手 地区	269名	総合学習の一環として環境衛生部が主体となって、山の手・琴似地区の地域清掃を行った。
9/24(木)	早朝一斉街頭啓 発 (秋季)	北洋銀 行山の 手出張 所付近	19名	今回は3名が街頭アナウンスに挑戦した。原稿の読み間違えが何度かあり、普段から文字に親しんでいないことがバレてしまったかな。少し恥ずかしかったが、貴重な経験をさせていただいたことに感謝した。
10/3(土)	赤い羽根共同募 金	地下鉄 琴似駅 付近	11名	西区社会福祉協議会のみなさんと一緒に行った(総額13,124円)。本校部員の声の大きさをたくさん褒めていただき嬉しかった。最初は緊張したが社会福祉協議会のみなさんの落ち着いた様子が心強かった。

10/3(土)	山の手小学校 P T A ななかま ど祭り	山の手 地区小 学校	11 名	車いす体験コーナーのお手伝いをした。うまく説明できなかったと反省していたが、P T A の方達には部員の動きには配慮があり機敏であることを褒めていただき大変励みとなった。
10/4(日)	2015～2016 国 際ロータリー第 2510 地区 地区 大会	ニトリ 文化ホ ール・ ロイト ン	11 名	青少年プログラムでは、ロイトン札幌からのキジカレーを大変おいしくいただいた。ご飯は空き缶で炊く体験をした。講演「大震災で学んだ三つの大切なこと」では、上手な話の聞き方について、ワークショップを交えながら楽しく学ぶことができた。
10//10(土 )	ユネスコスクー ル 植林活動	千歳市 国有林	9 名	ユネスコ会員と共にとど松、赤松、タモ類等 3.000 本を植林した。
10/16(金)	平成 27 年度 高 文連石狩支部ボ ランティア研究 大会	ちえり あ	17 名	ボランティア活動を行う生徒の研修と情報交換を目的として行われた。公演は「ボランティアって何だろう。」との題にてみちのく kids の方が学生時代の活動から現在の活動について報告があった。歳も近いせいかとても興味深く聞くことができた。また、今後の参考にもなった。
10/17(土)	J R C 第 1 回 高校生一日研修	日本赤 十字社 北海道 支部	13 名	アイスブレイクや今年度の目標をグループで話し合っ決めて決めることで、他校との交流も深めることができた。
10/26(月 ～30(金)	交通安全運動 生徒会とコラボ	学校周 辺	15～22 名	北洋銀行前、ロッテリア前、おもちゃの平野前 の 3 グループに分かれて、通学前と放課後交通安全運動をよびかけた。今年初めての試みと生徒のみでの活動に最初は恥ずかしかったが、次第に声を出すことが楽しくなり、有意義な活動となった。
11/3(火)	第 19 回ボラン テアスピリット賞 北海道東北ブロ ック表彰式	岩手県 盛岡市	2 名	岩手県交流センターで賞を受けた。その後、受賞者全員でボランティアについて交流会を開き情報交換をした。
11/11(水)	昼間一斉街頭啓 発 (冬季)	北洋銀 行山 の手出張 所付近	22 名	今回は 2 名が街頭アナウンスに挑戦した。寒い中だったが、通行人の方や警察官から労いの言葉をいただき、とても嬉しかった。
11/12(木 ～13(金)	高文連全道ボラ ンティア研究大 会	オホー ツク・ 文化交 流セン ター	4 名	『ボランティアでつながる新たな未来 ～始まりは小さな思いやり～』をテーマに行われた。全体公演は、伝道詩人 えいた氏が体験した発展途上国への支援活動について紹介があり、高校生がこれからのボランティア活動を行う上での動機付けとなった。

12/14(月) ～ 12/18(金)	校内歳末助け合 い10円募金	本校	全校生徒	募金箱や呼びかけポスターの準備を 楽しくできた。教職員へは生徒会長兼 ボランティア部長が職員朝礼の時間 を使って呼びかけ、全校生徒へは放送 局に校内放送を依頼した。今年は、 59,240円(昨年68,418円)であった。
12/12(土)	JRC 第2回 高校生一日研修	日本赤 十字社 北海道 支部	9名	グループワークで「竹ひごタワー」や 「ドローイング」をしながら、他校の 生徒との交流を深めた。協調性につい て深く学ぶことができた。
12/17(木)	西区社会福祉協 議会との合同活 動報告会	本校(1 年F組 教室)	7名	共に行った赤い羽根共同募金の反省 や、互いに活動報告をした。ボランテ ィアから得ることができる喜びやや りがいについて聞くことができ鼓舞 された。
H28 1/5(火) ～1/9(木)	カレンダーリサ イクル市	かでの 2・7	6～8名	集まった多量のカレンダーを仕分け、 販売。収益3,064,841円。国連、社協、 東日本大震災、ユネスコ協会などへ寄 付。ユネスコ協会も高齢化が進んでい るとのことで、高校生のボランティア は歓迎されている。
1/6(水)～ 1/8(金)	JRC スタデ ィ・センター	札幌留 学交流 センター(豊 平)	5名	「国際理解」をテーマに、世界の子ど もたちの生活の様子や状況について、 ワークショップを通して学ぶことが できた。また、赤十字職員からはアジ アで行った支援活動についての話も 聞くことができ、日本とかけ離れた状 況に胸を痛める場面もあった。
1/21(木)	西北ロータリー クラブ家族新年 会	ホテル 京王プ ラザ札 幌	5名	ホテルでの夕食に招待して頂いた。不 慣れな雰囲気になんか緊張気味だっ たが、ゲームなどの交流を通してロー タリアンやそのご家族と楽しく交流し た。
1/30(土)、 31(日)	2015年度青少年 国際交流の集い 兼第43回北海 道高等学校ユネ スコ研究大会	北海商 科大学	2名	ユハ・トゥイスク氏より母国フィンラ ンドの国、人、文化について講演が行 われた。留学生とは意見交換もした。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）

## 2015年度 市立札幌大通高等学校 ユネスコスクール実践報告

2008年新設の新定時制・単位制の本校では、幅広い分野にわたり約100科目の講座が開講されており、様々な背景の生徒が学びを共にしている。本校では生徒の「多様性」を強みにするべく、教科横断学習、渡日帰国生徒支援、国際交流活動、生徒会活動等を有機的に繋げた多文化共生教育、すなわち「異なる価値観を持った他者を受容できる生徒」の育成に取り組んでいる。

### 2015年度 大通高校におけるESDへの取り組み

## 2014年8月～2015年3月

### アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト

このプロジェクトは異文化理解という科目の中で行われた。この年度は、ジャパン・アートマイル・オフィスがタイのPlearnpasa Language Schoolを選んでくれた。お互いのことを知り合うことから始まり、テーマである「人種に対するステレオタイプ、偏見をどう克服するか？」の学習を行った。まとめの段階で、スカイプ会議を行い、お互いどのようなことを感じ合ったかを交流した。そして、最後にテーマについて壁画を制作した。歴史的、文化背景的に対立等のあった国や地域の組み合わせで人物と食べ物を並置することとした。ベトナムの春巻きを食べるアメリカ人、日本のおにぎりを食べる中国人。ステレオタイプからすると問題を抱える国同士かもしれないが、食はお互いに受け入れられるだろう。食を「偏見を超える」ものの象徴とした。



## 4月

### JNNE 教育NGOネットワーク 「世界一大きな授業」に参加

「世界一大きな授業」とは、JNNE（教育協力NGOネットワーク）主催の世界100カ国の子どもたちと一緒に教育について考える世界規模のイベントである。今年度のテーマも「全ての子どもに教育を」である。本校は、例年4月の授業開きに「世界一大きな授業」に参加している。日本や世界の教育の現状について知り、教育の大切さ、自分たちに何ができるかを考えるとともに、教科横断的学習活動によって、体系的な思考力や多面的かつ総合的なものの見方、「つながり」を意識、尊重する力を養うことが目的である。



本校が単位制であることを活かし、生徒が複数の教科で「全ての子どもに教育を」をテーマにした授業を受けることにより、教科という切り口からテーマに迫り、多角的視点で物事を考えられる様になることをねらいとしている。

理科、数学科、地歴公民科、英語科等、19以上の講座で授業を行い、約1か月で延べ約300名の生徒が参加した。

生徒からは、「学校に行ける、住む場所がある、きれいな水が飲めることすべてに感謝したい。」「文字を読めないという不便さを改めて知りました。」「みなが日常的に、いろいろな問題について考えていけば、世界は大きく変わるかもしれない。」などの感想が寄せられた。

## 4月～3月

### ミツバチプロジェクト

本校校舎5階で養蜂、採蜜をし、蜂蜜を使った商品開発、販売までを行っている。

開発した商品（蜂蜜3種・マカロン・はちみつラッシーJEWEL・トマトジャム・ルバーブジャム）は、9月に札幌大通公園で行われている「オータムフェスト」において商業情報科で販売。最終的な販売会計処理も商業情報科で行った。

今年度行った事業は、「巣箱巣枠制作」を、芸術科と生涯学習センター学社融合講座でのミツバチ関連授業で行い、「飼育・採蜜」を理科とミツバチ関連授業受講者・PTA・生徒ボランティアで、「蜂蜜を用いた商品開発」を家庭科・商業情報科で、「商品パッケージデザイン」を商業情報科・芸術科で、「蜂蜜を使用した調理実習」を家庭科の授業で企画した。

その他、英語科ではミツバチの生態を学び、英訳する授業などもおこなったことがある。また本校校舎には幼稚園も併設されていることから、情報を積極的に出すことで、オータムフェストの販売応援もしてもらった。更にPTA研修部は経専調理製菓専門学校から講師を招いて、本校で採取した蜂蜜を使用したハチミツロールケーキ作り講習会を行った。

今年度のメディアでの紹介は、北海道新聞、雑誌モーリー「生き物たちの场景」などがあった。このような試みは今後も学内外との連携を取りながら、持続可能な事業として展開する。



## 7月

### グラント高校生の受け入れ

平成27年度「札幌市立高校生・ポートランド市グラント高校生交流事業」により、男女1名ずつ2名のグラントの高校生を2週間本校に受け入れた。2人は基本的にホームステイ先の生徒と同じ授業を受け、様々な場面で本校生徒と交流した。札幌滞在中、東白石児童会館で、子供たちと日米の遊びを教え合うという交流もあった。

## 8月

### 1年次国際理解ワークショップ「セカイってナンダ??」

大通高校に在籍する海外にルーツを持つ生徒（中国、フィリピン、カンボジア、ウクライナ、ハンガリー、ボリビア、韓国、メキシコ、アメリカ）が、一年次生徒向けに「セカイってナンダ?」をテーマに、クイズ形式で9カ国のことについて出題し、楽しく学べる国際理解のためのワークショップを実施した。

日本人生徒は、渡日帰国生徒から異なる習慣や文化を持った人々の存在を認識し、渡日帰国生徒は自国文化について紹介することにより、自国文化についての理解を深め、自己肯定感を持てるようになった。

## 10月

### 青少年交流事業「JENESYS2.0」による中国高校生の訪問



上記の事業のより、中国人高校生 28 人、引率者 4 名が 10 月 16 日（金）に本校を訪問した。午前中は、歓迎セレモニーの後、中国人高校生が 5 つのグループに分かれ、校内の見学、及び、授業見学をした。各グループには生徒が付き、英語か（日本人生徒による）中国語（本校の中国人生徒による）でガイドをした。昼食も中国人生徒と本校の生徒と一緒にとった。午後は、交流授業が行われた。これは、本校の生徒と中国人の生徒の特設授業であった。本校の生徒と中国人の生徒が混ざった 10 のグループに分かれ、グループごとに学習することにした。最初は、漢字に関する授業が行われた。同じ漢字でも、日本語と中国語で意味が同じ場合と違う場合がある。意味が違う場合には、生徒たちは大変驚いていた。授業の後半は、「中国と日本が仲良くするために必要なこと」について、漢字 1 字で示してみようという課題を出した。それぞれの生徒は B4 ほどの紙に漢字を書き、説明した。その説明については、中国語のできる佐藤千恵子先生が、中国語から日本語に、日本語から中国語に通訳した。ほとんどの生徒が、融和的な意味を表す漢字を選び、「お互いが思いやりを持つことが大事だ。」というようなことを述べていた。思いがけず、このような言葉が生徒から出たことは、感動的であった。最後の送別セレモニーでは、本校の書道部による書道パフォーマンスを披露した。中国では行われていないということで、好評であった。別れ際には、生徒たちは握手したり、ハグをしたりして名残惜しそうであった。

## 11月

### Circle The World（札幌国際教育推進委員会主催 ALT 交流会）に参加

札幌市の ALT（外国語指導助手）が企画するワークショップと、生徒自ら行うワークショップにより、小さな世界旅行（Circle The World）を体験する、というもの。今年度は ALT30 名と、札幌市立高校 7 校からの生徒約 80 名が参加した。本校の中国からの渡日帰国生徒が、生まれ育った町、ハルピンの文化・教育・生活についてプレゼンした。

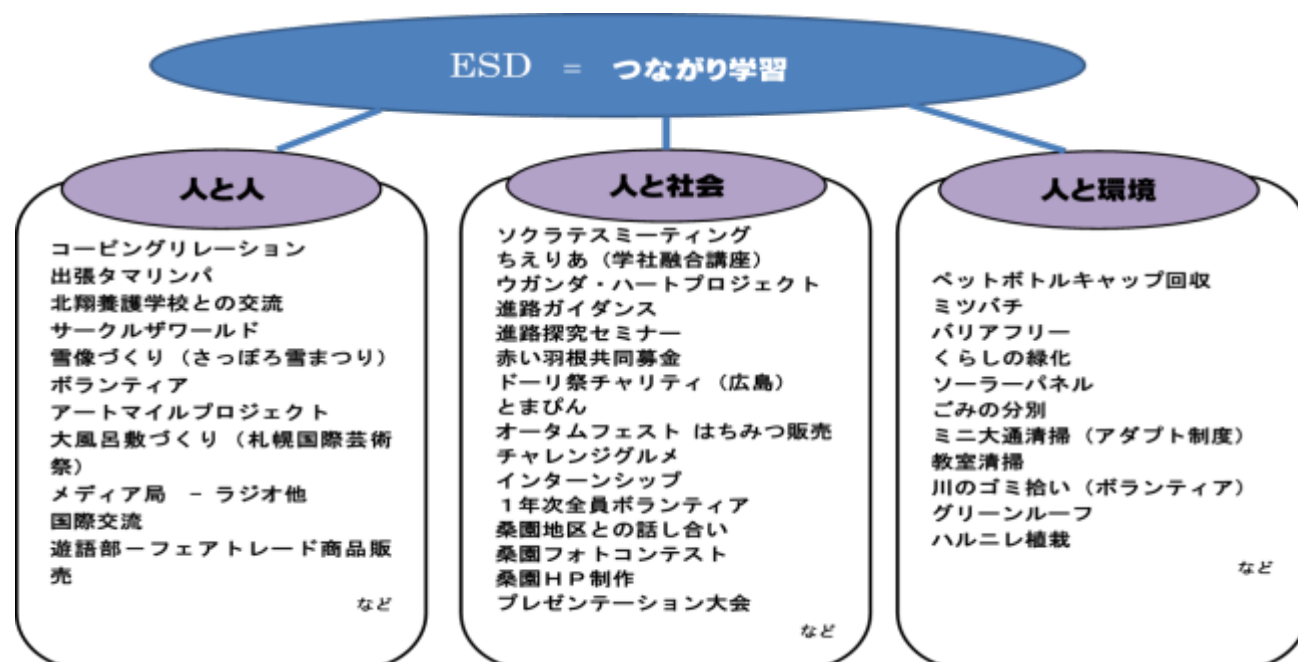
## 12月

### 1 年次「ESD 学習」

12 月 21 日（月）、1 年次「総合的な学習の時間」で、本校で取り組んでいる ESD 活動について学び合いを行った。

まず教師が本校の日常の活動と ESD との関係を示し、次に政府のインターネットテレビの動画を視聴し、ESD の意味を学習した。次にグループ内で自分たちが取り上げた活動について仕訳を行い「人と人」「人と社会」「人と自然」の 3 つに分類した。

最後は分類した図を完成させ、互いに発表し合った。



## 2年次「ESD学習」

2年次「ESD学習」は、1年次を発展させたもので、今年度が初めての試みである。12月7日（月）に行われた。テーマは「札幌の身近なESD」である。札幌には、扇状地から生み出される「伏流水」を利用して発展してきた産業があり（味噌、酒、豆腐など）、街の発展を支えてきた。一方で、その発展とともに失われていったものがあることに気付かせ、郷土「札幌のESD」について考えた。

前半は、ESDの概念を復習し、NHKで放送された「ぶらタモリ『札幌』」（録画）を視聴した。この番組では、本校の近辺に明治時代くらいまで湧水（アイヌ語で「MEM」）が湧き出しており、それがなぜ失われたのかを考察しており、この学習にピッタリであった。

後半は、北海道コココーラボトリング（株）に協力いただいた。2人の担当者が硬水と軟水の違いを、生徒に水の飲み比べをさせながら説明して下さった。その後、札幌工場の「いろはす」という飲料水の作り方を説明して下さった。彼らのポリシーで、くみ上げた地下水はその分地下に戻すようにする。また、水源を汚さないということを徹底しているということであった。これもこの「ESD学習」にタイムリーな内容であった。

## 2月

### NGO韓日社会フォーラムによる韓国高校生の訪問

2月3日（水）に14人の韓国人学生（7人が大学生、7人が高校生）と引率者1名が本校を訪問した。午前中は歓迎セレモニーが行われ、本校の2名の韓国人生徒が司会を務めた。引率者の方が日本語に堪能なので、来校した韓国人の生徒の通訳をお願いした。生徒会長は韓国語を学習中なので、あいさつを韓国語で行った。その後、本校の生徒の案内で校内の施設見学及び授業を見学した。韓国の学生たちはソウル及びその近郊から来ていたが、みな日本文化に興味津々で、案内の生徒にいろいろ聞いていたようだ。韓国語の話せない生徒は、英語で意思疎通を図っていた。

休憩をはさみ、昼休み中の和太鼓部の活動を見学した。歓迎の演奏を聴いている様子を見ると、初めて見る和太鼓の演奏に圧倒されていたようだ。その後、実際に本校生徒の指導で、和太鼓体験した。

昼食をはさみ、本校の生徒とグラウンドでレクリエーションを行った。グラウンドには膝くらいまで雪が積もっており、韓国の生徒たちは雪に触れるのがうれしくてしょうがないという様子であった。雪合戦や徒競走を楽しんだ後、本校の体育の先生の指導で雪だるまの制作をした。訪問生徒と引率者の人数と同じ15体の雪だるまを作った。小さいものからだんだんとサイズを大きくし、最大のもは1メートル50センチの高さになった。出来上がった雪だるまの首には、訪問者全員の名札をつるした。翌日、各ホームルームで本校生徒に、雪に不慣れな韓国の生徒と本校の生徒が作ったのだと紹介した。